共につくる。まるごと元気！多治見

Tajimist

Instagram

2023
No.2368
令和5年9/1発行
広報たじみ
9

特集1

自分らしく生きる

―高齢者が地域で安心して暮らし続けるために―

特集2

迫る地震に備えましょう

素敵なまちで輝く
素敵なひとたち

MY TOWN HOT NEWS
SNAP at TAJIMI-2023

PICK UP

「住みやすいまち たじみ」を目指して

7月23日(日)、たじみ市民討議会実行委員会が主催する「たじみ市民討議会2023」が産業文化センターで開催され、市民24人が参加しました。

4年ぶり12回目の開催となる今回は、「子ども」に焦点を当て、「子どもに多治見を好きになってもらうには？夢を持ってもらうには？」などの4つのテーマについて、6グループに分かれて討議しました。参加者は、それぞれの意見や考え方をグループ内でまとめ、テーマごとに発表を行いました。

討議会で出た意見は実行委員会によって提言書としてまとめられ、10月に市に提出されます。

たじみ市民討議会とは

市民の皆さまの知恵や声をまちづくりに反映させる市民参加の手法として、平成21年から毎年開催し、今年で12回目。無作為に抽出された市民のうち、参加に承諾いただいた方に「住みやすいまち たじみ」をテーマに討議いただき、まとめた内容を市に提言します。

今月の表紙

養護老人ホーム多容荘で開催された、たじみ認知症サロン「さんあいカフェ」の様子です。市内の地域包括支援センターが開催している「さんあいカフェ」では、認知症の人や家族だけでなく、地域の方々が気軽に集まり、認知症への理解を深める場所となっています。

2023 9 もくじ
CONTENTS

02 マイタウンホットニュースPickUp

03 特集 **「自分らしく生きる」**

08 特集 **「迫る地震に備えましょう」**

10 美術・文化情報／生活情報／土岐川観察館／地球村 など

16 地区懇談会

18 人事行政の公表

20 パブリック・コメント／入札結果／し尿処理 など

24 定期健診／相談窓口

26 健康情報／新型コロナワクチン接種／消費生活のお話／スポーツ情報 など

29 夜間在宅当番医・休日急病診療／バロー文化ホール(文化会館) など

32 食改協レシピ／青と緑の物語

33 市民病院だより／子どもの権利

34 マイタウンホットニュース

36 やきもの甲子園

自分らしく生きる

高齢者が地域で安心して暮らし続けるために

問 高齢福祉課
☎ 23-5821

認知症について知る、地域で見守る

詳しくはこちら

誰がなってもおかしくない認知症

認知症は加齢や病気などにより、認知機能が低下して生活での困り事が生じ、暮らしづらくなる状態をいいます。
65歳未満でも発症する場合（若年性認知症）もあり、誰でも起こりうる身近なこととなっています。
誰もが安心して自分らしく生きられる社会のために、認知症について考えてみませんか。

9月21日は 世界アルツハイマーデー

9月11日(月)～25日(月)

駅北庁舎をオレンジ色にライトアップします
※オレンジ色は日本の認知症支援のシンボルカラーです

認知症の正しい理解を

「こんなときどうしたらいいんだろう」「認知症ってどんなこと？」そんな認知症について正しく理解する方法の一つに、「認知症サポーター養成講座」の受講があります。

認知症サポーターカード

認知症サポーターは認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族を見守る「応援者」です。

認知症サポーター養成講座

- 日　時　9月29日（金）13:30～15:00
- 場　所　サンホーム滝呂
- 定　員　15人
- 申込方法　9月25日（月）までに電話で

申 問 滝呂地域包括支援センター 鬼頭
☎ 24-5562

認知症の方や家族への支援

認知症カフェ

認知症の人や家族が気軽に出掛け、出会い、話せる場。
地域の方が認知症の理解を深める場です。

日　時　9月9日(土) 9:15～11:15
場　所　総合福祉センター 1階ママズカフェ
定　員　10人程度
申込方法　前日までに電話またはEメールで
※飲み物代実費

申 問　太平地域包括支援センター 伊藤
☎ 25-1135
E-MAIL hou-taihei@t-syakyo.or.jp

太平地域包括支援センターでは毎月第2土曜日にママズカフェで認知症カフェを開催しています。
認知症への相談だけでなく交流の場となっています。

ママズカフェ スタッフ　榊原（さかきばら） めぐみ さん

認知症カフェをきっかけに、人とつながることができています。
居心地のいい場所として利用していただきたいです。

若年性認知症 オンライン交流会

日　時　9月30日(土) 10:00～11:00
場　所　Web会議システムZOOMを利用
対　象　若年性認知症と診断されている方、その家族
定　員　20人
申込方法　9月29日(金)までにEメールで
※事前にWeb会議システムZOOMをダウンロードして下さい

申 問　医療法人仁誠会 大湫病院 伊佐地
☎ 63-2231
E-MAIL okutehpshinri@gmail.com

介護家族交流会 ケアカフェ

癒しの音楽会＆介護食相談会。

日　時　9月27日(水) 13:30～15:00
場　所　ニコニコ支援センター精華 2階
対　象　介護をされている方
講　師　山下 一郎 氏
(認知症ケア専門士、音楽療法士)
定　員　20人
申込方法　9月22日(金)までに電話で

申 問　精華地域包括支援センター 日東
☎ 25-2511

介護家族交流会 なんじゃもんじゃ音楽会

日　時　9月15日(金) 10:00～11:30
場　所　総合福祉センター 4階大会議室
対　象　ご本人や介護をされている方
定　員　20人程度
申込方法　前日までに電話またはEメールで

申 問　太平地域包括支援センター 国立
☎ 25-1135
E-MAIL hou-taihei@t-syakyo.or.jp

地域での活動

認知症の方やその家族の困りごとを地域のサポーターが支援する活動が始まっています。

ねもとオレンジカフェ

ねもとオレンジカフェは認知症への理解を深め、地域で支え合うまちづくりを目指し、地域の方が主体となって運営しています。地域のボランティアが参加し、演奏・コーヒーを提供しています。

ねもとオレンジカフェ　亀井（かめい） 頼直（よしただ） さん

みんなが明るく楽しく過ごす時間をつくるために始めました。
地域の特性を生かして他の地域にも広がって欲しいです。

チームオレンジ（けせらせら）

チームオレンジとは認知症の方とその家族が認知症サポーターとともに活動するしくみです。多治見市で初めてできたチーム「けせらせら」では、定期的に仲間とおしゃべりをしたり、出かけたりと楽しんでいます。

チームオレンジ（けせらせら）リーダー　柴田（しばた） 勇夫（いさお） さん

家族の介護をきっかけに活動を始めました。認知症になると家に閉じこもりがちのため、外で楽しく話せる場所があることはいいですね。

認知症高齢者等みまもりシール交付事業

認知症高齢者などで行方不明となるおそれのある方に、衣服などに貼るQRコード付きシールを交付します。家族がQRコードを読み取った方とインターネット上で通信することにより、早期に保護する事業です。

対象者　65歳以上の行方不明のおそれがある方など

費　用　自己負担500円

QRコード付きみまもりシール

QRコードを読み取ると、実際の流れが確認できます

高齢者支援サービスがあります

詳しくはこちら

配食型見守りサービス事業

弁当を配達する時に高齢者などの安否を確認します。

対象者 おおむね65歳以上の安否確認が必要な方など

申請方法 申請書、身体状況等調査票（ホームページからダウンロード可）を窓口へ
※身体状況等調査票の作成はケアマネジャー、地域包括支援センターへ相談

孤立死ゼロ・虐待死ゼロのまち協力隊

新聞店や宅配業者など、市民の皆さまの生活に身近な99の企業や団体が加盟しており、訪問先で異変に気付いた場合に市などに通報する活動を行っています。この活動により、市民の皆さまの生活を見守っています。

活動にご賛同いただける企業、団体の皆さまは高齢福祉課へご連絡ください。

緊急通報システム

緊急時に消防本部（119番）へ直通の通報装置を貸し出します。

対象者 おおむね65歳以上のひとり暮らしの方で見守りが必要な方など

条　件 固定電話の回線が必要

申請方法 申請書、身体状況等調査票（ホームページからダウンロード可）を窓口へ
※身体状況等調査票の作成はケアマネジャー、地域包括支援センターへ相談

緊急通報装置

救急医療情報キット

かかりつけ医、家族の緊急連絡先などの情報を入れるキットを配布します。
冷蔵庫内で保管し、救急搬送時に医療情報などの確認に役立ちます。

対象者 65歳以上のひとり暮らしの方など

申込方法 申込書（ホームページからダウンロード可）を窓口へ
民生委員に申込も可

寝たきり高齢者等介護用品購入助成事業

おむつやその他の介護用品（防水シーツ、使い捨て手袋など）を購入できる券（月額5,000円分）を支給します。

対象者 在宅で65歳以上の要介護4または5の認定を受けている非課税世帯の方

申請方法 申請書（ホームページからダウンロード可）を窓口へ
※ケアマネジャーなどに常時おむつを使用していることを証明してもらう必要があります

自宅での療養を支援します

もしも慢性疾患やがんなどで療養生活が必要となった時、医療機関への入院や介護施設への入所をせずに、自宅で医療や介護を受けることも選択肢のひとつになります。

次のような支援が受けられ、自分らしく安心して在宅での療養生活を送ることができます。

医療

訪問診療

医師が自宅に来て診察や治療を行います

訪問看護

看護師が看取りや人工呼吸器などの医療的処置、認知症の方への看護を行います

その他

支援される方の症状などにより、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、医療ソーシャルワーカー（相談員）、リハビリ専門職が自宅での生活を支援します。

介護

ケアマネジャー

自宅での生活を支援するサービスを計画し、医療・介護関係者と連携・調整を行います

ホームヘルパー

食事や入浴などの介助、調理や掃除・洗濯をお手伝いします

どんな場面で、どんな支援が必要となるのかは、ホームページをご覧ください

具体的に相談したい場合は、地域包括支援センターへ連絡してください

地域包括支援センター

※お住まいの地区（小学校区）によって担当が決まっています。

名称	住所	電話番号	担当地域（小学校区）
太平地域包括支援センター	太平町2-39-1（総合福祉センター内）	☎25-1135	昭和　池田　脇之島
滝呂地域包括支援センター	滝呂町10-87-4（サンホーム滝呂内）	☎24-5562	養正　滝呂
南姫地域包括支援センター	大針町80-2（ふれあいセンター姫内）	☎20-2021	南姫　根本
笠原地域包括支援センター	笠原町2900-6（かさはら福祉センター内）	☎45-0007	市之倉　笠原
精華地域包括支援センター	十九田町1-10（ニコニコ支援センター精華内）	☎25-2511	精華　共栄
北栄地域包括支援センター	旭ケ丘7-15-1（養護老人ホーム多容荘内）	☎27-2211	小泉　北栄

迫る地震に備えましょう

命を守る備えと行動

問 企画防災課 神田　☎22-1378

30年以内に70～80％、50年以内に90％と高い確率での発生が予測されている南海トラフ地震は、市内で最大震度6弱、全壊の家屋が269棟、半壊が2,344棟と大きな被害が予想されています。

いつ地震が起きても被害を最小限に抑えられるように、今からできる備えをしましょう。

命を守る「安全対策」の例

家の中

- 家具は壁に固定するなどの対策をする
- 寝室や子ども部屋などにはできるだけ家具を置かないようにし、置く場合は背の低い家具を選ぶ
- 窓ガラスや食器棚などのガラスが飛び散らないよう、飛散防止フィルムを貼る。または、強化ガラスに替える
- 家具の上など、高いところに重い物を置かないようにする

家の周り

- 屋根瓦がずれたり、アンテナが不安定になっていたら補強する
- 物干し、植木鉢、エアコンの室外機などはしっかり固定する
- 玄関の周りには自転車や植木鉢などの出入りの支障になるものを置かないようにする
- ブロック塀が老朽化していたら修理する

地震の時の行動 10のポイント

① ぐらっときたら身の安全を確保する
② 揺れがおさまってから消火、火の始末をする
③ 室内のガラスの破片に注意する
④ 窓や戸を開け、逃げ道を確保する
⑤ 落下物に注意し、あわてて外に飛び出さない
⑥ 避難の前に電気・ガスなどの安全確認をする
（ブレーカーをOFFにする。ガスの元栓を閉める）
⑦ 狭い路地や塀には近寄らない
⑧ 隣近所の安否を確認する
⑨ 協力し合って救出・救護する
⑩ 正しい情報に従い、行動する

地震に対する備え

家庭での備蓄について

- 数日間生活できるだけの「備蓄品」を備えておく
- 目安として最低限3日間程度（できれば1週間分）の水や食料品は備蓄する
- 家族構成、住居や地域の特性によって必要となるものは異なるため、必要なものを考えて準備をする
- 賞味期限などと照らし合わせて定期的にチェックし、ローリングストックを行う

ローリングストックとは

普段自宅で利用しているものを少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品などが家庭で備蓄されている状態を保つための方法

POINT **備蓄の目安＝家族の人数×最低3日分**